

小中学校段階における「情報そのものの理解を促し
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」を養う

情報教育実践の開発

浜松情報教育研究会
代表 内山恵美子

目 次

要約	1
はじめに	2
研究の目的	2
研究の方法	3
（ 1 ） 授業開発コンセプト	
（ 2 ） 授業開発の運営	
（ 3 ） 授業開発の手順	
（ 4 ） 開発した単元プランの評価	
研究の成果	5
（ 1 ） 開発単元の構成	
（ 2 ） 開発単元の例	
（ 3 ） 活用を促進する開発単元一覧表	
（ 4 ） 活用の促進	
（ 5 ） 開発単元の評価	
今後の課題	16

「小中学校段階における「情報そのものの理解を促し
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」を養う

情報教育実践の開発

浜松情報教育研究会
代表 内山恵美子

要約

初等中等教育における情報教育は、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの要素から構成される情報活用能力をバランスよく育成することを目標としている。(文部科学省, 2002, 「情報教育の実践と学校の情報化」)

ここ数年, 小中学校課程の各教科や総合的な学習の時間においては, 情報教育の取り組みが急速に進展してきている。しかし, 必ずしもバランスのとれた情報活用能力の育成が保証されていない現状であり, 以下の問題をかかえている。

(1) 3つの要素のバランス

「情報活用の実践力」を目標とした情報教育実践は多数行われているが, 「情報の科学的な理解」と「情報社会に参画する態度」の授業実践は数少ない。

(2) 指導内容のバランス

「情報の科学的な理解」と「情報社会に参画する態度」の指導内容に以下のような偏りが見られる。

「情報の科学的な理解」は, コンピュータの仕組みや操作の実践に指導内容が偏っている。

「情報社会に参画する態度」は, 情報社会の影に対する実践が主流を占めている。

よって, 文部科学省の指導するバランスの取れた情報活用能力の育成が保証されているとは言い難い現状であるといえる。

そこで私たちの研究会では, 「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の本質的な意味を反映させた望ましい授業を模索し, 小中学校段階の日常の授業の中で実践できる教材を開発した。本稿では, 開発単元の今後の改善の方向性を含め, 研究成果の一端を報告する。

開発代表者：静岡県浜松市広沢二丁目5 1 番 1 号
浜松市立広沢小学校
TEL 053-454-8335 FAX 053-454-8336
E-mail eu00126@city.hamamatsu-szo.ed.jp
内山恵美子